

長崎歴史文化博物館出張授業「長崎版画体験授業」

本校の高校Ⅲ年生日本史選択者は、それぞれの単位の中で通史を学習しています。本年度の授業シラバスの中でもテーマ学習や体験学習を取り入れており、「1. 日本の通史を事実に基づき把握し、歴史の構造とその変化の過程を理解する。2. 歴史を現代の課題と関連して主体的に学び、歴史的思考力を養う。」という目標達成の一つの成果として、今回の授業を実施しました。

長崎歴史文化博物館より、研究員の加藤謙一先生、下田幹子先生をお招きして、「長崎版画の出自や変遷」についてスライドを通してお教えいただき、その後実際に長崎版画合羽摺^{かっぱずり}体験をさせていただきました。



加藤先生が「今回使用する型紙のにおいを嗅いでみてください・・・。どんな臭いがしますか？・・・『柿渋』という型紙です。渋みのある柿を絞り、その液体を発酵させて利用します。」とお話下さったときに、生徒達がさっとにおいを嗅いでいる・・・古き良き日本文化に直接触れさせることができた、私は感激しました。



型紙を押さえ、色を一回一回下絵に乗せて少しずつ完成していく長崎版画の絵図、集中している姿を見ながら、生徒達一人一人の学校生活の歩みを垣間見たような気がしました。高校ではそれぞれの進路実現を目指しながら、「卒業」という名の共通の目標へ向かって一日一日授業や学校行事へ地道に取り組み、自分自身日々成長し続けるものです。



今回の体験授業では、一人一人の長崎版画合羽摺を完成することができました。それぞれの個性が滲み出る作品となりました。卒業へ向けて、日本史授業の中で、このような体験学習ができたことを心から感謝申し上げます。何より、お忙しい中、様々なご準備をなさってくださいました、長崎歴史文化博物館の加藤先生、下田先生に厚く御礼申し上げます。

(活水高等学校社会科 岩永 崇史)